

第5回亀岡市総合計画審議会策定部会 議事要旨録

日 時：令和2年4月7日（火） 14：00～16：00

場 所：亀岡市役所 1階市民ホール

出席者：鈴木康久部会長、川勝啓史副部会長、青山公三委員、楠善夫委員、坂本信雄委員、多胡麻衣委員、山口みどり委員

欠席者：大石慶明委員、岸耕二委員、内藤登世一委員、三宅基子委員

次 第：1 開会

2 議事

（1）基本構想（素案）について

3 その他

4 閉会

1 開会

2 議事

（1）基本構想（素案）について

部会長

- ・前回、「第3部 重点テーマ」の議論ができなかったので、本日はこの項目を中心に議論したい。まず、事務局から説明をお願いする。

事務局

—資料No.1～No.4に基づき事務局説明—

部会長

- ・第4次総合計画の基本構想に該当する項目について、一通り説明してもらった。
- ・基本計画については、今後の議論という理解でよいか。

事務局

- ・本日の議論で基本構想の方向性を概ね議論いただき、その方向性を踏まえた基本計画について議論をいただくことになる。

部会長

- ・今後、膨大な作業量があることを再認識いただけるかと思う。
- ・基本構想については、第1～2部まではこれまで議論してきた。第3部についてはまだ議論できていないので、この部分を中心に意見をいただけるとありがたい。
- ・これまでの議論で「住んでみたい」「選びたい」というワクワク感が大切という議論があった。

これまでの議論と重複する部分があるかもしれないが、4つの重点テーマによって、そのワクワク感が出てくるように、取り入れるべきキーワードや記載内容について意見をいただきたい。現在の表現では、他のまちでも変わらない印象を受ける。

A 委員

- ・この総合計画をみた市外の人に、面白そうなまちだと思われるようにするため、ライフステージに応じたまちづくりが必要である。一度、出て行っても戻ってきて、賃貸住宅に住んで、その後、親の持ち家を相続するという住まい・住み替えのサーキュレーションができるまちは重要である。
- ・特に京都に近いという特色があるので、それをうまくアピールできるとよい。大都市しか持てない機能は京都市に任せて、しかし基本的な「住む魅力」を高め、家族が住んで、子どもが出て行っても戻ってきて、結婚すれば二世帯住宅で住める、そんなライフステージごとの住み方を表現するような言葉、視点をもっと強調してはどうか。
- ・「セーフコミュニティ」「環境先進都市」はとてもよい。「重点テーマ 2 スポーツ、歴史・文化、観光の魅力で産業が活性化するまちへ」に産業が位置づけられているが、内容はスタジアム及び既存資源による交流人口の活用がベースになっている。これと別に 5 番目の柱として働く場を位置づけたい。京都先端科学大学があり、現状・動向にも有数の産業が育っていると記載しており、また京都大学桂キャンパスでも、トヨタとNTTが投資するトヨタの自動運転に関するプロジェクトチームが立ち上がるといった動きがある。例えば京都大学にアプローチし、桂に近接し、関西文化学術研究都市のような新規開発都市とは異なる新旧入り交じったまちの中で自動運転の実証実験の場を提供してはどうか。プロジェクトチームのチームリーダーと面識があるが、こうした人を巻き込んで Maas の次、例えば湯ノ花温泉、亀岡駅、トロッコかめおかをつなぐ自動運転システムなど新しい時代の投資が入るようになると、面白い取組になる。

部会長

- ・ぜひ、そういう人をまちに紹介してほしい。

B 委員

- ・前回は産業面が不十分だと指摘した。重点テーマ 2 に産業を位置づけているが、産業活力があることがまちの基盤となる。では、産業としてどのような方向を目指すのかを考えると、タイトルに工夫が必要である。例えば「5G の存在するまち」など、次代の産業活力の方針をきっちり記載することが大切である。現在の重点テーマの表現は抽象的であり、京都先端科学大学の存在等も念頭に置いたまちづくりを考えるべき。それが亀岡のイメージにつながる。

ーB 委員より資料配布ー

- ・亀岡の実態をみると、課題が山積している。例えば農業産出量は府内 4 位、一販売農家当たりの農業産出額は京都府平均を下回り、事業所へのアンケートでは人材不足が指摘されている。

産業の構造が市外から材料を仕入れ、加工し、販売するという外部依存型になっているが、5Gを取り入れ、もっと市内調達比率を高めていくことが将来の課題解決につながるという主旨で考えてほしい。

- ・商業でも、事業所数が減少し、中心性指数でみた購買力も流出している。
- ・こうしたいくつかのデータからも、腰を据えて産業振興に取り組まなければ、京都に働く場を依存するという状況は変えられない。

部会長

- ・地域経営の視点から重要な指摘をいただいた。現在の重点テーマ2は、亀岡を売り出すという視点で産業活性化を位置づけているが、これは一緒にするべきではないのかもしれない。

C 委員

- ・どこのまちでも同じようなものではなく、オンリーワンの亀岡の素材を集めてPRする必要がある。特に亀岡縁（ゆかり）の人物をもっと掘り下げて、明智光秀以上にPRすることがあってもよい。明智光秀も大河ドラマを通じて、これまでのイメージがかなり変わってきたのではないか。オリンピック・パラリンピックは延期になったものの、確定している代表選手の出身地でもある。
- ・亀岡にしかない三大観光地も十分に利用し、来てもらうだけでなく、まちによい印象を持ってもらい、いずれは住んでみたいと思われるようにしたい。
- ・産業が発展しなければ、まちの活気も生まれない。スタジアムを活かしたスポーツ観光も重点のひとつとして意識してほしい。

部会長

- ・強調すべきところは強調しなければいけない。それをわかりやすく伝える工夫も重要である。

副部会長

- ・京都先端科学大学が必要とする様々な実験場所も京都市内にはなく、亀岡でイノベーションシティに取り組むという考えがあるという話も聞いており、京都先端科学大学を活かした産業起こしを考えたい。産官学が協調した、新たな産業構造の創出に期待したい。

部会長

- ・新たな感覚を取り入れることも大事である。

D 委員

- ・亀岡には田舎のイメージとともに、新しいビジネスを取り入れようとする柔軟さも感じる。例えば山間部に住む高齢者の基本的な生活が自動運転技術で維持される、「最先端技術による田舎暮らし」のようなワクワク感が感じられるようなまちづくりを考えたい。亀岡は新しい要請

に応えるまちだという思いを伝えていく必要がある。

部会長

- ・これまでの議論からも、やさしさ、つながり、安心して暮らせるといった視点が大切だということが共有されていると思う。

E 委員

- ・私はまちなかから引っ越し、亀岡に住んで 20 年になる。改めて亀岡に住んだ時のことを考えると、「ほどよい田舎」が良かったのだと思う。隣接する京都市と同じようなまちになる必要はない。亀岡の資源である緑、自然、田舎の風景を最大限に活用し、水や空気の美しさを守り、新しいものを取り入れる包容力のある土地柄を訴えていけば、市外の人にもワクワク感が伝わるのではないか。

部会長

- ・重点テーマは重要な議題であり、もう少し議論したい。
- ・これまでの意見、議論をまとめてみると、まず重点テーマ 3 及び 4 については、方向性について概ねの一致ができている。
- ・重点テーマ 1 については、ライフステージに対応でき、住み続けたいと思わせる要素を表現する必要がある。新しいものを吸収し、まちが成長し、各ライフステージにおいて個人の夢が叶えられるまちであることを示したい。
- ・重点テーマ 2 については、三大観光という日本に誇る資源があり、それを活かした取組をさらに進めていくことが伝わるような表現が必要である。日本の中でもトップクラスの魅力があることを世界に伝えたい。明智光秀、京都スタジアムという新たな要素も加えたい。
- ・その他、お考えのことがあれば、ご意見をお願いしたい。

A 委員

- ・「ほどよい田舎」という考え方はよい。思い切ってそうした方向で打ち出す方法もある。例えば「住み続けたい、帰って来たい、子育てしやすい、ほどよい田舎町」という表現なら、読んだ人に「おっ」と思わせるかもしれない。他都市のキャッチフレーズでも「帰って来たい」という表現はあまりみられず、使ってみてもよいのではないか。

部会長

- ・よい表現だと思う。

D 委員

- ・おいしい水、穏やかな雰囲気は崩してはいけないものである。ただ、「田舎だけれど、実は、やっていることは最先端」という力強さも打ち出したい。

部会長

- ・そういうまちなら、住みたいと思うだろう。

E 委員

- ・「帰って来たい」というフレーズはよい。住み続ける＝居続ける人ばかりでは、価値観が偏ってしまう。一度市外に出て、新しいものを吸収して帰ってくる方がまちのためになる。子どもたちが一度出て行って、帰りたいと思うまちをつくるというメッセージ性が込められるとよい。

部会長

- ・皆さん、頷いておられるようだ。

D 委員

- ・ただ、帰って来てどうすればよいのかわからないのではだめ。帰って来て、楽しいと思える魅力が必要である。自分の子どもをみている、今はあまり亀岡に興味がないように感じる。

B 委員

- ・重点テーマ5として、例えば「ICTの最大化によるまちづくり」を位置づけ、いつまでも京都市に依存した産業構造ではなく、京都先端科学大学等との連携のもと、自前の産業を育てる方向に向かう機会としてはどうか。「自前でやっていけるまちにする」ということがわかるタイトルにすべき。

副部会長

- ・現在は就業を京都に依存し、昼間人口比率が低くなっている。しかし、篠町の大根農家を若い人が継ぐという例もみられる。これは篠大根が価値を持っているからである。同様に亀岡牛の生産農家も若い人が増えている。農業に限らず他の産業においても、帰ろうと思わせるような価値がなければいけない。米（水田）だけでは若い人は戻らないだろう。

部会長

- ・もうひとつ次の段階（基本計画レベル）かもしれないが、頑張っているところについては書いていくことがあってもよい。
- ・産業は重点テーマとして入れなければいけないと思う。

B 委員

- ・産業については、一項目起こすべきだろう。

部会長

- ・亀岡を売る、知ってもらおうというテーマでは、どのような表現をすればよいか。三大観光が亀岡の売りか。

A 委員

- ・産業に関する1項目を増やすのは、ぜひお願いしたい。
- ・どのようなキャッチフレーズにするのかは難しい。産業がこのまちに息づいているというイメージを打ち出したい。現状では、亀岡に働く場があるということが市民に認識されていない。
- ・宇治・城陽で企業調査、また城陽市の産業支援サイトの制作等に関わったことがある。その時に、すばらしい企業が立地しているが、それを市民が知らないという現状を知った。企業の海外転出が進んだ中、日本に残っているのは需要もノウハウもある企業であり、亀岡にもそうした企業があるのではないか。
- ・篠大根は頻繁に食しているが、それは京都市鷹峯の農家が亀岡市篠町に土地を借りて栽培しているものである。季節の変化が大根栽培に適しており、瑞々しいが中身は甘く、しっかりしている。こうした風土も市民がもっと認識し、市外にアピールしていくことがあってよい。タイトルももう少しうまく表現すると面白いものになる。
- ・もう一点、巨大観光都市・京都に隣接するまちとして、京都にないもの、つまり海外の人がわざわざ亀岡まで来て楽しめるものとは何なのかをマーケティングするべきである。例えば、新温泉町（兵庫県）では、ウィーン（豪州）から20kmにある温泉町バーデンを参考にした生き残り策を進めている。7人の観光戦略チームがバーデンについて調査を行ったところ、例えば歴史を活かしたイベントの開催等で若い人を集めたり、まちなかの交通ではエリア外で観光バスを駐車させ、歩かせるモビリティ戦略を進めたり、欧州の温泉地ネットワークをつくって売り出したりしている。湯の花温泉も知る人ぞ知る温泉ではあるが、東京では知られていない。日本にも温泉地ネットワークはあるが、マーケティングを行うことで売り出し方も変わるのではないか。例えば観光庁の事業を活用して、中国や東南アジアの人の体験型観光のニーズを調査してはどうか。京都市の隣にあるまちとしてビジネスチャンスはある。もう少しうまくやろう、ということを書き計画に書いていくためにも、キャッチフレーズはもう少し工夫が必要である。

部会長

- ・京都市と隣接していることは、大きな可能性があるということ。

B 委員

- ・重点テーマの順番も考えた方がよい。子育ては大事なことだが、ある意味、様々な取組の結果ともいえる。そのための要因を充実させていくと考えると、
1 環境先進都市／2 観光の魅力／3 セーフコミュニティ／4 ICTのまちづくり（仮）、
そして結果としての「5 子育て、住みたいまち」となるのではないか。

部会長

- ・よい意見をいくつかいただいているが、「重点テーマ3 環境」「重点テーマ4 セーフコミュニティ」については、異論がなさそうである。
- ・重点テーマ4 については、グリーンインフラは入れてほしい。亀岡では、古代丹の湖（にのみ）に人が住まないという伝統でまちが形成され、そこに災害が起こらないまちができた。京都大学防災研究所の研究では、大雨で嵐山に災害被害が出て、亀岡で昔から人が住んでいるところは大丈夫、ということであり、基本的なグリーンインフラができているという精神と伝統を伝えていくことが必要である。

B 委員

- ・重点テーマ2 は「～魅力で産業が活性化する」というより、「～魅力ある環境の最大化によるまちづくり」のようなイメージではないか。

部会長

- ・ご指摘の部分は「亀岡を知ってもらおう」ためのテーマという位置づけだろう。
- ・それでは、第3部の議論はこのくらいにしておきたい。
- ・続いて第4部 施策の基本方針だが、ここでは第4次総合計画のファクターに新たな要素を加えて整理されている。どこでも通用するようなものではなく、亀岡市全体としてこういう言葉・キーワードや表現は入れるべきだ、といったご意見をいただきたい。例えば基本方針5の環境にあるアユモドキは亀岡オンリーの特徴だが、それ以外は今の時代に対応していくという方向性が強く、表現が尖っていない。行政が尖った表現をすることは難しいので、各委員のご専門の分野等で、今、亀岡でできていること・ものも含めて、もう一押しのご意見をいただきたい。タイトルへの指摘でも、文章中への指摘でも構わない。
- ・まず方針1 及び方針2 についてどうか。セーフコミュニティ以外は他のまちとあまり変わらない印象を受ける。

A 委員

- ・方針2 のセーフコミュニティは他都市にない重要なキーワードである。例えば「セーフコミュニティに支えられた安全安心なまち」とすると、「これは亀岡だね」と言える訴求力が全く違ってくるのではないか。あるいは、さきほどの議論を踏まえて「帰って来たい」「ライフステージ」といったキーワードを使うことも考えられる。具体的な表現については、まちのことをよくご存じのB委員に提案をいただきたい。各委員が考える宿題にしてもよい。

D 委員

- ・セーフコミュニティは亀岡が日本で初めて認証を受けたものであり、亀岡からもっと発信していくべきである。

B 委員

- ・特色を強調するなら第3部で、そこでまさに亀岡、というものを表明したい。それがきっちりできれば第4部はある意味、定性的な内容になってもよいのではないか。

部会長

- ・ここで全ての施策を網羅するなら、一部を強調しなくてもよいのかもしれない。しかし政策立案者側としては、例えばセーフコミュニティをトップに、防災・消防に続くという並びも、上から重視するという意思表示になる。また、重視するキーワードをタイトルや文章で少しでも表現することは重要である。
- ・第4部は各部局で記載しているのか。

事務局

- ・第4部の基本方針は各部の意見を踏まえ、事務局で整理した。基本計画の原案については、各課にプランニングシートの記載を求め、それをベースに組立てることになる。

A 委員

- ・B委員の意見もわかるが、市民が細かい部分にも興味を持てるようにするためには、多少の味付けはあった方がよい。例えば方針5「環境先進都市」はその味がついている。
- ・各課に提案を求めるのはよいが、その中から何を強調するのか、どんな特徴あるキーワードを取り上げていくのか、という点も議論になると思う。

部会長

- ・計画策定に携わってきた側の意見としては、亀岡らしいものを強調するアジテーションはあってもよいと思う。重点テーマに意見・アイデアが入っていくが、そこから基本方針に少しずつでも反映していくことがメッセージになる。ここが平凡になると、全てが平凡になる。
- ・30年前に亀岡に住むことを決めた時、亀岡をよいと思った点を伝えられる計画にしたい。方針2なら、リード文にほどよい田舎といった文が入ると、それに伴って自治会加入率が高いとか、全員加入している、そのコミュニティの良さが安全・安心につながるといった展開になる。

C 委員

- ・30～40年前にこのまちにきた我々も含め、市民に亀岡を好きになってほしいということから「好きです、亀岡」というキャッチフレーズが打ち出されていたが、いつのまにか立ち消えになった。「We Love 亀岡」など、亀岡が好きだ、あるいは好きになってほしいという表現がどこかにあってもよい。

部会長

- ・方針1の「ふれあいのまちづくり」に代わる言葉にするという方法もあると思う。

E 委員

- ・方針3なら、相談を充実させて「当事者を一人にさせない」「誰も一人にさせないまちづくり」など、ここは頑張るという部分を示せるとよい。実際、亀岡市はその部分を頑張っている。

部会長

- ・「相談できるまちづくり」というのも特徴的かもしれない。10年の計画なので、10年後に相談できる体制ができていれば他のまちと違うまちになると思う。「一人にさせないまちづくり」でもよい。

D 委員

- ・活力や賑わいを感じさせ、心踊るような、読んでみたいと思わせる表現がほしい。
- ・方針2なら「人にやさしくする」「安全安心で、人にやさしいまちづくり」など、田舎ならではのやさしさを感じさせるようにできないか。

部会長

- ・これまでの議論と重複するかもしれないが、産業分野についてはどうか。

B 委員

- ・亀岡は丹波なのか、という意見もあるが、「丹波のまちから京のまちへ」とアピールしてはどうか。経済の実態としては京都市との関係が強く、今はそれに少し偏りがあって、人もお金も京都市に向かう歪な構造になっている。この関係を変えるという意思表示である。

部会長

- ・亀岡に住む人が亀岡で働き、亀岡で消費できるまちにすることだろう。

副部会長

- ・「市民みんなで亀岡の物語をつくろう」というフレーズがあるとよい。

部会長

- ・「みんなでつくるぞ」という意志がどこかに示されてもよい。

C 委員

- ・ワクワク、ドキドキをメインに、サブとして何か表現してもよいのではないか。亀岡のことを知っているぞ、一度住んだら余所には行かないぞ、という目標も望ましい。ある団体のアンケートで、市民に「亀岡の三大観光を体験したことがあるか」を尋ねたところ、半分の市民は体験していないという結果だった。本当は市民が全員、観光大使となって、全国、そして世界に亀岡を発信してほしい。そしてそのためには、せめて全ての市民が三大観光を体験しているよ

うになってほしい。

- ・観光客は2年前に292万人、昨年は300万人を実現していると思う。それに対し京都市は年間5,500万人を集客しており、できればその1割に当たる550万人を亀岡に引っ張りたい。

部会長

- ・500万人を集客するため、「市民全員が観光大使になる」と宣言すれば、意識も変わる。言葉をアレンジして、ご指摘のような方向性を示すことも考えたい。
- ・そのほか、特に言っておかなければいけないということはあるか。

B 委員

- ・こうした事態を踏まえると、新型コロナについてもふれる必要があるのではないか。足元が一度崩れると、観光客を回復し、元に戻すだけでも簡単ではない。コロナが治まれば放っておいてもまた観光客が押し寄せるかとなると、それは期待薄だろう。インバウンドの変化を念頭に置くと、国内客をどう集めるかが課題になると思う。同じことは全国の小京都と呼ばれるところも同様である。まず、土台が崩れかかった危機的な状況であると認識し、どうすればよいかを考えるべきだろう。

部会長

- ・感染症対策に関する課題は、基本計画レベルでも特に重要なテーマのひとつになるだろう。
- ・他になければ、これまで、そして本日の議論の概略を整理したい。
- ・土地利用の基本方針については都市計画マスタープランで対応ということで、あまり口出しをしないが、これだけ京都市あるいは他のまちとの関係が言われるなかでは、周辺との関係も少しは触れておいた方がよいと思う。現在の表現は市内のことにほぼ限定している感がある。
- ・第3部重点テーマは、テーマを5つにして、産業に関するテーマを書き込んでほしい。
- ・重点テーマ1の子育ては、ライフステージ、ほどよい田舎などの特性、そして「帰ってくる、戻ってくる、選ばれる」というニュアンスを反映してほしい。
- ・重点テーマ2のスポーツ・歴史文化・観光は、亀岡を全国、世界に知ってもらうツールであることを意識してほしい。また、大石委員が出席されていれば、恐らく自然の活用を提案されたと思うので、留意してほしい。
- ・重点テーマ3の環境都市、重点テーマ4のセーフコミュニティは代名詞にもなりえるので、引き続き進める。
- ・そして重点テーマ5に産業、あるいは新しいものが生まれるイノベーションシティなどを加える。かつて亀岡に移住してきた人の選択において、その要因となった篠大根、湯ノ花温泉などの多くのものがまだ十分に周知されていないので、これらを次代に伝え、そして新たなものが生まれるまち、新たな産業を生み出すまちといった打ち出しの検討をしてほしい。
- ・第4部施策の基本方針は、あまり突飛なものは望ましくないという意見と、亀岡の計画だとわかることが必要という意見があった。どのように本日のアイデア等を書き込んでいくか、相談

したい。但し、人と人との関係性の中でふれあうまち、という部分は見えた方がよい。方針6の産業分野におけるひとつの方向としては、京都に依存するのではなく亀岡独自の経済基盤といった何らかのイメージがわかりやすく出せるようにしてほしい。頑張る元気な農業、スタジアムなどもそのひとつの要素だろう。

- ・宿題が多くなったが、検討をお願いしたい。では、本日の議論を終了する。

3 その他

事務局

- ・本日の議論を踏まえ、次回までに改めて修正提案をさせていただく。
- ・重点テーマについての確認だが、事務局としては、分野別（第4部施策の基本方針）の枠組みに納まらないものであり、その方向性を踏まえながら、第4部では分野別に記載するという構造を考えているが、それでよいか確認しておきたい。

部会長

- ・重点テーマをどのように捉えるかということだが、いわゆる縦割りの施策に対して、亀岡が重視するテーマを横串として横断的に示していくものと理解しているが、それでよいか。

ー各委員了承ー

4 閉会

事務局

- ・重点テーマについては、産業に関する項目の設定について、テーマのキャッチフレーズ的な表現について、そして重点テーマの順番について、庁内でも議論したい。
- ・次回は5月後半を予定している。
- ・それでは以上で終了とさせていただく。長時間の議論に感謝する。

以上